Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N－ro 113　　Aprilo 2007

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO　　北海道エスペラント連盟
ĉe HOŜIDA Acuŝi　　〒053-0844 苫小牧市
Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI　　宮の森町２丁目１８－１８
053-0844 JAPANIO　　星田 淳 方
TEL-FAKS:0144-74-2539　　Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp
Poŝtĝirkonto（郵便振替）：02700-6-17075
＊Sekretario: SATOO Eiji　　＊事務局：佐藤英治
TEL(poŝ):090-2054-8751　　TEL-FAKS:0144-58-2174
Retadreso : zamenhof@ka2.so-net.ne.jp
＊TTT-ejo : http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm

［Enhavo／目次］

・表紙、Enhavo／目次　P. 1
・Bildrakonto "Reviviĝu, la arbaro de Erimo!"　P. 2
絵本「よみがえれ、えりもの森」エスペラント訳（後半）
・Danke ricevitaj　－受領郵便物－（星田淳　扱い）　P. 6
・Parolas gesamideanoj/kiel ni iris la vojon de Esperanto　P. 7
座談会「歩んで来た道　エスペラント」
・Aŭskultante vorton de s-ro KAJANO Ŝigeru/YOKOYAMA Hiroyuki　P.12
萱野茂さんの話を聞いて（アイヌ語・エスペラント対訳）
・"evento" en la Dua Bulteno de la 92a UK　P.14
Dua Bulteno の日本紹介のエス文の中の
単語「evento」について。／川合　由香
・［編集後記／Redaktanto parolas ...］

Bildrakonto "Reviviĝu, la arbaro de Erimo!"

Verkita de MOTOKI Yooko, pentrita de TAKADA Saburoo

絵本「よみがえれ、えりもの森」

（本木洋子・文　高田三郎・絵）エスペラント訳（後半）

Esperantigis : CUBAKI Ŝooiĉi
GOTOO Joŝiharu
HOŜIDA Acuŝi
KODAMA Hiroo
ŜIRAHAMA Haruhisa

前号からの続きです。

19頁

風につよく、かわいた土地にそだつクロマツが植えられたが……。一週間もしないうちにかれた。砂地の下の、水のまじった地層のせいだった。

「手でほってでも、水をぬくしかねえ」

ツルハシをふるって、溝をほる常雄さんたちの手に、血豆ができてはつぶれた。

一日かかって、十メートルしかすすまなかった。

21頁

森作りがはじまって二十年。

だれもがくたびれていた。常雄さんも病気になった。

漁師をつがないといって、遠い町の高校にいっていた息子のひでおさんが、かえってきた。

ひでおさんは、海にでた。舟からは、百人浜がみえた。

ちいさなクロマツの森ができていた。

p. 19

Oni plantis nigran pinon, kiu rezistas kontraŭ vento kaj toleras sekecon, ··· sed ĝi velkis dum semajno pro la akvoza tavolo sub sabla tero.

"Forigu la akvon fosante eĉ per niaj manoj"

Cuneo kaj liaj kolegoj pioĉis por fosi la teron. Sangaj blazoj aperis kaj dispremiĝis multe sur la manplatoj.

Ili apenaŭ povis fosi dek metrojn da kanaleto dum tuta tago.

p. 21

20 jaroj pasis post la komenco de verdigo.

Ĉiuj estis lacaj. Ankaŭ Cuneo malsaniĝis.

Hideo, filo de Cuneo, ne volis esti fiŝisto kaj lernis en liceo de fora urbo. Tamen li revenis hejmen.

Hideo elboatis al maro. Li vidis la strandon Hjakuninhama.

Malgranda arbaro de nigraj pinoj vidiĝis tie.

ひろい砂漠にできた、
オアシスのようだった。
苗木をうえ、ツルハシをふるう人たちのすがたが、目にうかんだ。
ひでおさんは漁師になり、
木をうえるなかまになった。
森はまだまだ遠かった。

22頁

海の底にも、ながいあいだにつもった砂がたまっていた。
浜辺で、ひとりのじいさんがつぶやいた。
「いつか、流氷がおしよせてくる。海の底をそうじしてくれるぞ」
じいさんは、毎日、海をながめていた。
流氷が、太平洋のえりもの海までくるのは、数十年にいちど。それがいつなのか、だれにもわからない。

24頁

ある冬の夜明け。
海がぎしぎしと音を立てていた。
常雄さんたちは、浜辺にかけつけた。
えりもの海を、白い氷が埋めつくしていた。四十年ぶりにやってきた流氷だった。
白い氷のかたまりは、海の底にたまった砂をおしながし、海の底にかくれていた岩をこすった。
じいさんが信じていた、流氷のおおそうじだった。

Ĝi ŝajnis esti kvazaŭ oazo
en vasta dezerto.
Li povis imagi,
kiel oni penis planti
kaj pioĉi tie.
Hideo fariĝis fiŝisto kaj aliĝis
al la kolegoj de arboplantantoj.
Ankoraŭ foras la celo - reverdigo.

p.22

Sur marfundo amasiĝadis sablo
dum longa tempo.
Unu maljunulo murmuris
sur la marbordo
"Iam venos flosanta glacio
ĉi tien kaj forpurigos
la marfundon".
Li rigardadis la maron
ĉiutage.
Flosanta glacio atingas
Erimon nur unu fojon
en kelkdek jaroj. Neniu scias,
kiam ĝi venos.

p.24

En unu vintra tagiĝo.
La maro klakis kaj
knaris.
Cuneo kaj liaj kolegoj alkuris
la marbordon.
Blankaj masoj de glacio plene kovris la maron de Erimo. Flosanta glacio venis post kvardek jaroj!
La masoj de glacio forpuŝis
la sablon amasiĝintan
sur marfundo kaj frotis rokojn
en marfundo.
Tio estis la kompleta purigo,
kies venon kredadis la maljunulo.

砂にうもれていた岩が、
すがたをあらわした。
26頁
つぎの年、くろぐろと光る、
ふとったコンブがとれた。
やがて、百人浜の森も、すこしずつおおきくなっていった。
ゴーゴーとふきすさぶ風は、むかしもいまもかわらないが、森のめぐみが、海にそそぐようになった。
魚がもどり、コンブの森が生まれた。
29頁
「おれはコンブ漁師だが、半生は山にかけた。漁師だから、海のことだけを考えていればいいんでない。山があれると、海もあれるんだ。五十年たって、心からおもう」
常雄さんが、息子や孫におくる言葉だ。
ひでおさんのコンブ舟が、海にでていく。
孫は、六代目のコンブ漁師になるといっている。
31頁
クロマツの森に、カシワの子どもがそだっている。
エゾシカも、やってくる。
えりもの人たちの
森づくりは、おわらない。
カシワやミズナラにおおわれた、むかしの森をとりもどすまで、何代もかけて、木をうえつづける。

Jen aperis rokoj, kiuj estis plene kovritaj de sablo.
p.26
Sekvan jaron bone kreskintaj laminarioj, freŝnigre brilantaj, rikoltiĝis.
La arbaro de la strando Hjakuninhama vastiĝis iom post iom.
Muĝanta vento ĉiam blovas same kiel pasintajn tagojn, sed favorajoj de arbaro nun enfluas en la maron.
Fiŝoj revenis, arbaro de laminarioj naskiĝis.
p.29
"Mi estas fiŝisto-laminariisto, sed mi zorgadis pri la arbaro grandan parton de mia vivo. Estas ne sufiĉe, ke fiŝisto nur rigardu la maron. Kiam arbaro ruiniĝas, ankaŭ la maro mortos. Mi komprenas tion post kvindek jaroj!"
Tio estas la vortoj, kiujn donas Cuneo al siaj filo kaj nepo.
Boato de Hideo eliras al la maro.
La nepo diras, ke li estos la sesa-generacia fiŝisto-laminariisto.
p.31
Kverkidoj kreskas en la arbaro de nigra piceo.
Ankaŭ jezo-cervoj venas tien.
Ankoraŭ daŭras la laboro de erim'-anoj fari arbaron.
Ili plantadas trans generacioj ĝis la reakiro de iama arbaro, kiu kovris la teron per kverkoj kaj mongolaj kverkoj.

あとがき

いま、アフリカや中国、アジアの国々で、緑をとりもどす活動が活発におこなわれています。人間が、自分たちが生きるために壊しつづけてきた森を、よみがえらせようという活動です。緑にあふれた日本にいると気づきませんが、わたしたち人間は、世界中の森をものすごいスピードで壊しつづけているのです。

「えりも砂漠」ききなれない言葉です。開発によって、明治時代の終わりまでには、海岸ぞいの広大な森を失い、砂漠化したえりもの町は、そういわれました。

この物語は、ふるさとをすてようとまで追いつめられたコンブ漁師たちが、長い年月をかけて森を再生してきた実話です。住民の側から描いていますが、国と住民が一体となって取り組んだ緑化大事業でした。いちど失った自然をとりかえすことが、どれだけ大変なのか、えりもの人たちが教えてくれたように思います。

大事な資料を全部くださった岩崎京子さん、えりも町の飯田常雄さん、雅子さん、取材にご協力いただいた有岡千恵子さん、小川悠紀弥さんに、心から感謝の言葉をささげます。

2003年 8月　　元木洋子

Postskribo

Nun en Afriko, Ĉinio kaj aziaj landoj, marŝas vigle la agadoj renaski verdon sur la tero. Ili celas revivigi la arbaron, kiun homoj detruadis por sia vivo. Ni, la homaro, tre rapide detruadas arbaron en la tuta mondo, kvankam ni ne rimarkas tion vivante en Japanio plena de verdajoj.

"Dezerto de Erimo", eble ne konata vorto al vi. La Regiono Erimo, perdinta vastan arbaron apud marbordo pro utiligado por hejtajo ĝis la fino de Meiji-epoko(1911), estis nomata tiel.

Tiu ĉi rakonto estas vera historio, kiel la fiŝistoj-laminariistoj (laminario-kolektantoj), minacataj perdi hejmlokon, revivigis arbaron per sia multjara klopodado. Tion rakontas la loĝantoj-fiŝistoj en ĉi tiu libro. Tamen, tio estis granda verdiga entrepreno, kiun plenumis la loĝantoj kaj la registaro kune. Ŝajnas al ni, ke la loĝantoj de Erimo instruis, kiel penega estas la klopodo reakiri naturon foje perditan.

Mi esprimas koran dankon al Sinjorino IŬASAKI Kjooko, kiu donis al mi ĉiujn gravajn materialojn, al Gesinjoroj IIDA Cuneo kaj Masako, al Sinjorino ARIOKA Ĉieko kaj S-ro OGAŬA Jukija, kiuj volonte helpis min por kolekti informojn.

2003. 8.　　MOTOKI Jooko(MOTOKI Yôko)

Danke ricevitaj　―受領郵便物―（星田淳　扱い―読みたい方はご連絡下さい）

＊La 80a Kongreso de Esperantistoj en Kjuŝu/PROTOKOLO 2006.5.20-21
第８０回九州エスペラント大会の記録
大会日程、あいさつ、報告、寄せ書き、決算報告、参加者名簿

＊センター通信：2006年12月20日，第251 号、名古屋エスペラントセンター、B5 X 8頁のうちエスペラント文は記事の見出し、説明など合計十数行。前号にも出ていたオーストラリア夏期講習の参加記が４ページを占める。

＊Mejlŝtono: 2007 marto N-ro 200, 仙台Ｅ会：B5X20 頁の内E.文５頁半。200 号記念号．祝辞、歴代編集者覚書、活動史などの間に古い会員（S-roj 菅原、菊池）の弔辞も。

＊連絡はがき（2007. 3.10）
今後　北九州エスペラント会　宛の郵便物はすべて下記へ：
807-0047福岡県遠賀郡水巻町
鯉口 10-17号　　吉部洋平　方
北九州エスペラント会

＊第56回関東エスペラント大会の案内
2007.5.19 （土）～20（日）
横浜市中央区日本大通　ＺＡＩＭにて
20日、函館の S-ro Sergej Anikejev が「エロシェンコと現代日本」の題で語る。

＊Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/ Marto 2007　N-ro222; B5 X12頁のうちE.文５頁弱は Konciza Historio de la Ĉina Esperanto-Movado（中国世界語運動史；北京、2004）から日中両国のエスペラント運動の初期の交流を描いた部分。

＊La Movado;KLEG（関西エスペラント連盟）発行、N-ro 674 apr. 2007, B5 X20頁のうちE.文２頁。そのうち１頁は姉妹都市のエスペランチスト訪問記（中国）。

＊NOVA VOJO:N-ro 428 januaro 2006, EPA （エスペラント普及会）、A5 X42 頁中Ｅ文11頁。「日本・ポーランド国交回復へのあるエピソード／松本照男」は歴史的に興味深い内容。"Pri Tadao Umesao（梅棹忠夫論）/Tacuo Huĝimoto" 前号から連載中。EPA 支部活動報告では苫小牧支部の柴田佐保さんの英語弁論大会（昨年11月11日、苫小牧駒沢大学）でエスペラントを紹介し入賞の記事。「エスペラントで短歌を作るには/Tacuo Huĝimoto 」など、この号は内容豊富。

Parolas gesamideanoj
kiel ni iris la vojon de Esperanto
2007. 04. 14 (90a datreveno de morto de Zamenhof)

座談会「歩んで来た道　エスペラント」

１９２３年、新撰エス和辞典で有名な岡本好次がエスペラント宣伝隊を組織して北海道の主要都市を回った。その種が芽を吹き根づいたと言われてから間もなく75周年をを迎える。その間第２次世界大戦があり、ご多聞にもれずエスペラントも当局の厳しい弾圧を受けた。姿を変えながらもエスペラントはその火を消さず今日に至っている。残念なことに戦前、戦中のエスペラント経験者はもういない。

戦後いち早くエスペラントを始めた人からつい最近始めた人々に集まってもらい北海道のエスペラントの軌跡を話していただいた。奇しくも今日はザメンホフが亡くなってからちょうど90年の命日に当たる。

場所　札幌　かでる２・７
日時　2007年（平成19年）４月１４日
出席者　児玉　広夫　　（アイウエオ順）
佐藤　英治
白濱　晴久
瀬川　綾子
星田　淳
山岸　悦子
渡辺　康子
司会　後藤　義治
設定　中田　実

（司会）　みなさんがエスペラントを知ったのはいつ頃か、どこで、どんな形であったのか聞かせて下さい。

（児玉）　道庁に入る前、由仁町の役場に勤めていました。ちょっとした本などは岩見沢に行かないと買えませんでしたが、当時外国語に興味はあったものの、指導書などは岩見沢でも皆無でしたね。あるとき偶然、英語の「早稲田講義録」を見つけ勉強したが発音が全くだめで身内にさえ笑われる始末、幸いにも役場の上司がエスペランチストで、習っているうちにのめり込んで行った。

（星田）　子供のころ内モンゴルに住んでいたが天体が好きで星座表を見ると、そこにαとかβとかの書き込みがあり父に聞くとギリシャ語だが、人間の作った言葉もある、と教えてくれた。これがエスペラントを知った始まり。

（山岸）　昭和３５年ごろ、長沼町の町立病院に勤めていたが、田舎町で若者には寂しいところだった。それでよく札幌に出て来ていたがそんなある日、丸善で「エスペラント1500語」という本を手にしたが、学ぶ方法がわからない。エスペラント学会に問い合わせたところ、札幌エスペラント会を紹介され通うようになった。

（渡辺）　私は大本の信者だからエスペラントのことはいつ知ったのかは記憶にないが知っていた。きっかけは母から好きなことだけでなく、嫌いなことにも挑戦しなさいと言われ、タイミングよく新聞の小さな記事を見て、その上末永さんに誘われて始めました。

（白濱）　もともと言語学に興味があって、2000年の春、新聞の記事を見て講習に参加した。

（瀬川）　30年くらい前、栗栖継の「世界の子供」を読んで感銘を受けた。1985年、新聞の記事がきっかけで札幌エスペラント会の入門講座を受講した。

（佐藤）　大学四年の時、本屋で立ち読みをしていて大島義夫の「エスペラント四週間」を学習し始めた。講習会を受講したことはない。

（司会）　学びたいと思った動機は、どこで、どんなテキストを使って、何という先生から習ったのでしょうか。

（星田）　私も講習を受けたことはない。熊本で高等学校時代、古本屋で見つけた千布利雄の「エスペラント全程」が教本。友人たちがやっていたドイツ語、フランス語などに比べ文法がやさしいのが気に入った。エスペラント団体について朝日新聞に問い合わせたところ、幾日かたって三宅史平さんから返事をいただいた。

（児玉）　英語で挫折した私は職場の上司である新田為男さんから教わることになるが、新田さんが当直のときなど宿直室まで押しかけてエスペラント漬けの日々が続いた。

（山岸）　テキストは何だったか覚えていないけど、娯楽の少なかった時代、札幌でのエスペラント学習はとても楽しかった。

（司会）　いつからかは定かでないが、札幌エスペラント会では定期講習が確立し、吉原正八郎さんが自分の事務所を解放し、今北海学園大で教鞭を取っておられる切替英雄さん、続いて宮岸忠孝さんが　Teksto Unua を使って入門講習を行って来たことになりますね。

（佐藤）日本でのエスペラント講習は受けていないものの６０年代はエスペラントが盛んで、ネパール旅行をしたが滞在中は　Razen Manandhar さんと毎晩会話を楽しんだ。

（司会）　エスペラントは楽しいと言っても今まで長々と続けられた理由は、わけあって中断した人は再開の理由を話していただけませんか。

（児玉）　今では骨の髄までザメンホフに傾倒したからで、そうなったのはテキストにあって、小坂狷二の「エスペラント捷径」を読み進めて行くうちに中等編にある第一回世界エスペラント大会でザメンホフがした演説をエドモン・プリヴァがすばらしい美文で活写している。これが私に今までエスペラントを続けさせた源になった。

（星田）　私はロマン・ローランのエスペラントに共鳴した文の影響が大きかった。しかし私の場合は使うために始めた。始めは切手収集。独習書の手紙の例文で、年齢、名前などをあてはめ、切手交換希望、とハガキを出せば世界中の切手を集められる。あるとき、多民族国家で抑圧される少数民族の事を文通相手から訴えられ、そのことを国連の事務総長に書き送った。「以下の文はエスペラント語」との第１行だけを英語で書いて。意外にも、読んだという返事が事務総長から来て、あの手紙は関係国に回し、記録に残すと書いてあった。これで私の中でエスペラントは確固としたものになった。

（渡辺）　エスペラントは母語以外の世界平和の言葉、生まれたときからそういう環境にあったから何の抵抗もなく自然に続いてきた。

（山岸）　英語よりやさしいので興味も増した。40年以上も前になったが東京の第50回世界大会に参加して実感した。世界レベルのすばらしい友達は私の大事な財産となった。ところがワルシャワ大会では会話力の不足が身に染み、ロッテルダム大会に向けての１年間はしっかり勉強しよう、この実践が細々ながらも今の私を支えている。

（瀬川）　ワルシャワ大会では手続きに半日もかかり、回りは騒々しいし、わけのわからないことは起こる。もう大会はコリゴリ、絶対いやだと思った。オランダには行かないと決めていたが山岸さんに誘われたのが運のつきというか転換点になった。だんだん面白くなって来たばかりでなく、次のキューバ大会では目に見えて成長したように思う。

（白濱）　第一線を退いて暇になった、外国語は元来好きだし、一番わかる英語でも小説を読むのはとてもむずかしい。だがエスペラントは「KARLO」を読んでよく理解できたし、興味も増してきた。

（佐藤）　外国語イコール英語という図式が気に入らない。対等性がないばかりか差別感さえある。エスペラントの最も気に入っているところはザメンホフの人類愛だ。

（司会）　みなさんは今、どんなエスペラント組織に加入し、何という雑誌を読んでいますか、また所属組織でどんな役割をしていますか。

(注) UEA：Universala Esperanto-Asocio
JEI：Japana Esperanto-Instituto
HEL：Hokkajda Esperanto-Ligo
SAT：Sennacieca Asocio Tutmonda
SES：Sapporo-Esperanto-Societo
EPA：Esperanto-Populariga Asocio
TES：Tomakomaja Esperanto-Societo
TEK：Tokia Esperanto-Klubo

(山岸) UEA, JEI, HEL, SES に加入しております。購読しているのは La Revuo Orienta と TEKの La Suno Pacifika です。UEA は年鑑会員なので機関誌は読んでいません。

(佐藤) SAT, JEI, HEL に属しています。購読誌は Movado, Monato, Nova Vojo と HELの機関誌 Heroldo de HEL 、役割としては HELの事務局長をしています。

(瀬川) UEA, JEI, HEL, SES の会員ですが、何の役割もしておりません、何かあるときのお手伝いはしていますが。

(児玉) UEA, JEI, HEL, SES と TEKに属しております。3年ほど前すべての役割から離れて自由にエスペラントだけを楽しんでいます。それまでは UEAのデレギート、HEL の委員などをしておりました。

(星田) UEA, JEI, HEL, TES のほか、少数民族に関する組織 Internacia Komitato de Etnaj Liberecoj(IKEL) に加入しております。UEA のデレギート代表 (Ĉefdelegito), HEL の委員長と今年は JEIの補充評議員などを引き受けていますが、代わってくれる人がいたら、一日も早くバトンタッチをしたい、が本音。購読誌は各組織の機関誌のほか、国内外の組織からの恵贈誌や交換誌などを読んでおります。

(司会) 今まで読んだ本（和文エス文に関係なく）のうち心に残った本や自分のエスペラント運動に影響を与えた人を挙げて下さい。

(白濱) エスペラントで初めて出会った本「カルロ」の美しい文体に引かれた。本格的なものとしては、アマゾンの密林の少年クメウァウァと交流した難破船の船乗りたちの物語 (Tibor Sekelj: Kumeŭaŭa, la filo de la ĝangalo)。さらに Tempesto super Akonkagvo を読むに至って私の山好きのせいもあろうがチボール・セケリをとても尊敬するようになった。

(瀬川) そんなにたくさんの本を読んではいませんが、「エスペラント家族」が私の心にいろいろな言葉を残してくれた。人では最初に顔を合わせたらしゃ

べりなさいとしかられた永田明子さん、木村喜壬治先生も生涯忘れられない人だ。

(佐藤)　本では中国の作家魯迅の Sovaĝa herbejo が心に残っている。人では1993年ブルガリアのＳＡＴ世界大会で出会った Anarki-SindikatistoのＳさん、80才は過ぎたと思われる方だったがスペインで戦った経歴もあるという。Varna (ブルガリア) の大会には当局の弾圧を受けて出られなかったそうです。

(山岸)　何いっても「KARLO」プリヴァの流れるような文章がいい、カルロが学校を抜け出し、川でボート遊びするあたりは今でも鮮明に思い出される。人では同年代でもあり永田明子さん、ワルシャワで会ったのが最後だったが、今でもエスペラントと言えば真っ先に思い出す。

(星田)　伊東三郎の原作詩、韻文がきっちりできており、文章構成がとてもよい。他にはロセッティの Kredu min, Sinjorino!　エスペラント原作では異例のロングセラーだ、何よりも「生きた言葉」に出会える。ちょっと話は違うがイード (Beaufront らがエスペラントを改良して作ったーと称するー言葉) で文通したこともある。

(渡辺)　皆さんと同じく KARLOだが、他に前田茂樹の「ぼたえもん」がある。何といっても言葉の表現の仕方がすばらしく、文体が美しい。人では大本の信者でもあるからだが出口王仁三郎さん。「神はひとつ言葉もひとつ」共感してやまない。

(児玉)　本当に KARLOは何回読んでも感激する。第一番は私をエスペラントの虜にしたザメンホフの大会演説。人では永田さんのご主人ウーシェンクさん。永田さんが病を得たとき、永田さんのご両親は私の近くに住んでおられたが、ドイツ語でのやり取りでは要領を得ないところもあり、私がエスペラントで仲立ちをした。何回も何時間もウーシェンクさんと話をしてご両親に報告する、完全に生きた言葉、実際に使える言葉の実践だった。

最後に今後のエスペラント活動についての指針を探ってみたが事前準備の不足もあり、座談会の目的も過去の軌跡を振り返るということもあって、参考になるような意見は得られなかった。現状打破には①在宅のエスペランチストへの対応、②学習会のあり方、効果が上がる学習方法、③エスペラント活動の活性化、④高齢化によって知りつぼみになった組織の改造、⑤新エスペランチストの養成、特に若者へのアクセス、などが考えられるがスローガンに止めないよう、不細工でいいから現実的な具体策で実行可能なものにする。

近い将来、準備万端整えて未来に向かっての方策を語り合う座談会なり討論会なりを考えたい。

文責　後藤

Aŭskultante vorton de s-ro KAJANO Ŝigeru
萱野茂さんの話を聞いて（アイヌ語・エスペラント対訳）

YOKOYAMA Hiroyuki

アイヌタイムズの「萱野茂さん追悼号」横山さんがアイヌ語で寄稿した文、エスペラントやプラハ宣言に言及しています。以下対訳で示します。(La red.)

La ainaligva trimonata gazeto "Ainutimes" N-ro 38 estas funebra speciala numero pri s-ro Kayano, la aino mortinta lastatempe.
Mi ankaŭ skribas la ainalingvan artikolon pri tio kunigita la aferon de Esperano.
Mi informas al vi pri tio jene.

(la aina)
Kayano Sigeru nispa ye itak ku=nu wa

teeta, Kayano Sigeru nispa terebi orta ene hawean hi;
"ecioka anak eci=kor itak eci=ye eas kay ruwe ne. korka, c=utari anak ci=kor itak ci=ye kuni hattoho an wa ayne, ci= ye eaykap ruwe ne. ci=kor kewtum eci=erampewtek nankor." sekor hawean hi ku=nukar amkir.
oya terebi-bangumi or ta "minzoku kor itak anak, ne minzoku ikkewe ne." sekor hawean hi ka ku=nukar ruwe ne. sisam itak takup ye utar, ne itakipe erampewtek nankor kuni ku=ramu.
aynuitak a=en=epakasnu kor k=an hike, itak ani, aynu utar makanak kamuy eoripak ya ka k=eraman. aynu utar makanak pirka kewtum pirka puri kor utar ne ya ka k=eraman.
sisamitak ani patek ne yak a=erampewtek pe ka, aynu itak ani easir a=eraman hi ka oka sekor ku=yaynu.
usa oka utar kor itak ka kor puri ka, opitta a=eyam pe ne

(Esperanto)
Aŭskultante vorton de s-ro KAJANO Ŝigeru
Iam mi vidis en la televida programo, ke s-ro KAJANO Ŝigeru, la aino, diris jene; "Vi povas paroli en via lingvo. Tamen oni malpermesis al ni paroli en nia lingvo, fine ni ne povas paroli en nia lingvo. Ŝajnas al mi, vi ne povas kompreni nian senton de malĝojo."
En alia televida programo mi vidis, ke li diris, "Etnolingvo estas bazo de la etno." Laŭ mia penso la senton ne povas kompreni la japano parolanta nur japane.

Mi lernas la ainan lingvon. Laŭ ainaj vortoj mi komprenas, kiel la aino respektas siajn diojn. Mi komprenas, ke la aino havas bonan koron kaj konduton.
Mi pensas, ke troviĝas la aferoj nekompreneblaj japane sed kompreneblaj aine.
Mi pensas, ke gravaj estas ĉiuj lingvoj kaj kulturoj de diversaj

kuni ku=ramu oya utar kor puri ka kewtumpirka no a=nu wa a=eraman yakun, etoko ta a=erampewtek pe ka a=eraman etokus ruwe ne. newaanpe sino pirka p ne sekor ku=yaynu.
tane, inne utar eigo itak patek ye wa, ne "eigo mosir"
anak "guroobaru-sutandaado " sekor ka a=porose p ne korka, itak sinep n yak wen sekor ku=yaynu.
hemanta kusu usa oka minzoka ukotum uwen hi ka an ya? kani anakne Esuperanto itak eraman pe ku=ne hike, 1887 pa ta Zamenhohu ne itak kar ruwe ne. "ani minzoku utur a=wente p syuukyoo ne wa itak ne" sekor ne kur yaynu ruwe ne.
eposokane, oya motoho oka nankor korka, Esuperanto itak
ye utar ene yaynu hi;Esuperanto itak
inan minzoku kor pe
ka somo ne kusu, a=kor itak neya a=kor puri neya oya
minzoku utar kor kuni ikaspaotte ka somo ki no, nen ka
somo utasaroski no, usa oka minzoku utar ukoytak kuni p
ne, sekor yaynu ruwe ne. sankoo: "Puraha-sengen,

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/prago/prago-j.htm"

a=kor puri ka a=kor itak ka a=eyam no, a=utari opitta uwekatayerotke=an yak pirka sekor ku=yaynu.
Kayano nispa ye itak anakne, itak pisno a=kocanupkor pe an sekor ku=yaynu. te pakno arikiki no aynu puri i=epakasnu wa i=kore ruwe ne.

homoj. Se oni klopodas kompreni aliajn kulturojn de aliaj homoj aŭskultante bone, oni povas kompreni la nekompreneblajojn antaŭajn. Tio estas tre mirinda laŭ mia penso. Nun multaj personoj parolas nur angle, la ajo per la angla estas nomita "tutmonda normo", sed laŭ mi penso, tio estas, ke oni devas paroli nur en sola lingvo en la tuta mondo.
Kial oni malpaciĝas inter diversaj etnoj? Mi estas homo, kiu lernas Esperanton. En 1887, Zamenhofo faris la lingvon. Li pensis, ke la kaŭzo, kiu malpacigas homojn, estas religio kaj lingvo.
Kompreneble tio ne estas ĉio. Neniuj etnoj havas Esperanton, tial oni povas paroli sen malpaciĝi inter diversaj etnoj kaj sen ordoni havigi al aliaj etnoj Esperantan lingvon kaj kulturon laŭ penso de Esperantisto. [Rim.: "la Manifesto de Prago, http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/prago/OKI_JP_utf8.htm (Manifesto de Prago en la okinava lingvo kun Esperanto kaj la japana lingvo), http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/AinaManifestoDePrago.htm (Manifesto de Prago en la aina lingvo)"]
Mi pensas, ke oni respektu aliajn kulturojn kaj lingvojn, tiel oni paciĝu kun la aliaj.
Troviĝas multaj bonaj gvidiloj por la diroj de s-ro KAJANO laŭ mia penso. Li gvidis nin al ainaj kulturoj per ĉiuj fortoj ĝis nun.

kamuy mosir ta kamuy re an kur k=aynukor kor k=onkami na.

Mi preĝas por la animo transiranta al la aina dia mondo "kamuy mosir" montrante ĉian ĝentilecon.

****

" e v e n t o" en la Dua Bulteno de la 92a UK

Dua Bulteno の日本紹介のエス文の中の単語「evento」について。

（前号 N-ro 112\14頁の中ほど参照）

川合　由香

日本語の、日常会話中の「イベント」は「お祭り的なもの」と解釈されるのが普通だと思いますが（それで「広島の方」が怒られるのでしょう）、学術関係では別の使い方、星田さんがお書きになった（古い英語の大辞典）ように、「吉凶にかかわらず、出来事、事件を表現する」という意味で、結構用いられているようです。

精神医学の分野で：ある人について、良いことも悪いことも含めて、大きな生活上の変化・転機を「ライフイベント」「生活上のイベント」などといいます。就職・失業・結婚・離婚・出産・転居・近親者の死・職業上の昇進・・・と吉凶とりまぜて挙げましたが、そういった変化一切を「イベント」といいます。これら「イベント」が、（たとえ本人にとって好ましいものであっても）病気の引き金になることがあるため、単に「変化」という「あまりにも普通の単語」を避け、強調する意味でカタカナ語の「イベント」を用いて表すのだと私は推測しています。

野外科学の分野で：「自然」を相手の科学で、定常状態と異なる何がしかの変化・変動（主に突発的な出来事で、それを観測・追尾している人の目を引くもの）を「イベント」と表現することがあります。例えば、地震も火山の噴火も地球物理学上の「イベント」です。私が昔、治山工学の講義で習ったところでは、河川の流量などを継続的に追っているとき、まとまった降雨があればそれを「降水というイベントがあった」と表現していました。日本語にカタカナ語（多くは英語）として取り込まれてしまうと、PIV や語源から離れていってしまうものですね。日本人のエスペラント学習にはそういう陥穽があるのだと、気をつけておかなければならない・・・と自戒をこめて思います。

いまロシア語翻訳に追われていて忙しいのですが、UKをにらんで（多分、一生に一回だと思います）、エスの学習もせねば・・・とおもっています。

****

［編集後記／Redaktanto parolas ...］

＊北海道大会案内の編集が遅れ、別紙を折り込むことになります。

＊９５才、最高年齢の豊倉さんからのハガキの一部を紹介します。

vortaro の字は天眼鏡が必要です。Esperanto の小説には読みたいものに赤丸の印がついておりますが、---- ブリキの太鼓、兵士シュベイク等まだ読んでおりません、残念です。辞書を引いて文章が急に光を放つ時の快感、「エスペラントをやってよかった」と思います。

第７１回北海道エスペラント大会のご案内

２００７．　４．２８
北海道エスペラント連盟

日時：７月２８日（土）　１０：００～１６：００
　　７月２９日（日）　１０：００～１６：００

場所：札幌市中央区北２条西７丁目　かでる２・７
　　２８日　１０階　１０２０会議室
　　２９日　　８階　　８１０会議室Ａ

プログラム概要

２８日　１０：００　世界大会へ向けての会話学習
　　１２：００　休憩
　　１３：００　Fjodor J^ulin （ロシア大学生）と語る
　　１６：３０　Bankedo （会費　２０００円）

２９日　１０：００　外国のお客様との交流
　　S-ino Beatrice Alle ´e （フランス、５４才）
　　S-ro Fjodor J^ulin （ロシア、　１８才）
　　１２：００　休憩
　　１３：００　ＨＥＬ総会

参加費　　出席　　３０００円
　　不在参加　２０００円

記念品　Ainaj Jukaroj １冊と　ＨＥＬ図書部持参の図書より１冊
　　Ainaj Jukaroj をお持ちの方は外国の友人への donaco にでも。
　　不在参加の方は希望の本を知らせてください。考慮します。